

令和5年度 自己評価結果

開 智 幼稚園

1、本園の教育目標

あらゆる保育内容は子ども中心に考案し、「子ども中心主義」に徹する。そして、快い刺激を与える保育カリキュラムによる知能が発達してゆく過程において、子ども達自身が意欲的に飽くなき挑戦をし、喜びを知ることで明日も来たいと感じてくれるような保育の実践をする。そして、子ども達の成長の手助けとなれるよう信頼関係を築きながら、共に楽しく生活していけるよう、配慮した幼児教育を目指す。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育要領を踏まえて、教育課程の内容を確認し、教職員の共通理解をはかり、教育の質を高めるとともに、預かり保育の充実を図り、幼稚園が今後担う役割について検討する。そして、5年度は、仮説園舎での保育となるため、環境が変わる不安や安全で安心できる体制を確立させ保育に当たりたい。

3、評価項目の達成及び取組状況

評 価 項 目	取 組 状 況
幼稚園の教育課程の編成、実施に関して教職員間の共通理解をはかる。	今年度も引き続き、幼稚園教育要領の理解を全教職員で推進し、日々の保育を展開していく中で、問題点等あれば話し合いを行っている。
幼稚園の状況を踏まえて中、長期的なビジョンと計画を策定する。	長期休業日の預かり保育のさらなる充実を図る。そして、令和5年度は仮設園舎で生活となるため、環境変化による事故が起きないように安全対策をしっかり講じて、安心できる保育の実践をしていきたい。そして、今年度も「密」に気をつけながら保育をしていきたい。
教育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	園内での研修や意見交換をしながら、コロナウイルスが5類となり全ての行事を規制することなく実施することで達成感や喜びを味わうことの出来る保育の実践。をして、今年度も引き続き成長の遅い子の支援を心理士の先生による巡回指導と助言をいただき実践してきた。
保護者のニーズの把握に努め、要望や苦情に適切な対応をはかる。	今年度はコロナウイルスが5類となり規制が緩和され、保育参観や運動会などの行事において制限をかけないで保護者の方に見ていただけたのは良かった。また、子どもの様子は、担任が個別懇談を実施して保護者向き合い出来たのは良かった。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今年度も取り組むべき課題を具体的に示し、全教職員が共通に理解し、各自が自己評価を行ない、本園としての方針を明確にすることができた。そして、コロナウイルスが5類となり規制が緩和され全ての行事を実施できたことは良かった。今年度は年少児の募集が予定数を下回ったので、園児が適正に集まり総合的な評価を得られるよう、今後は、全職員で子ども達のためにより良い保育を目指し、地域に愛される幼稚園を目指し、頑張っていきたい。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
安全管理	不審者の対処や災害時の対処など、色々な情報が大阪府、交野市、大阪府警、交野市消防署から、随時提供されるようになってきた。素早く対応できるように、教職員が常に危機管理の意識を持ち、日々の保育にあたるよう努める。そして、バスの車内確認装置をつけたが、安心安全にバスの運行が行えるよう、目視を忘れないように重視し気をつけていきたい。
特別支援教育	今年度も巡回指導対象園児が数名いるので、子育て支援課と連携をとりながら、専門家の指導や研究会に積極的に参加して、職員の特別支援教育に関する知識や指導技術の向上を図った。
園に対する保護者の満足度の把握	園見学などを通して、子育て中の保護者の方が期待している事を把握し、そのニーズに応えられるようになっていきたい。そして、預かり保育の時間延長を検討し、7年度より認定子ども園への意向に向け、今後の幼稚園教育のありかたも検討し、保護者から指示される幼稚園を目指したい。

6. 学校関係者の評価

園見学にきた保護者の方からきびきびと行動が出来、見ていて気持ちが良いという声をいただいた。また、交野市内の小学校の先生との懇談において、開智幼稚園卒園児は意欲的に授業に取り組み、椅子にきちんと座り態度も素晴らしいとお褒めの言葉もいただいた。今後も子ども達が自主的に動けるよう、日々の保育を大切に実践していきたい。

7. 財務状況

公認会計士により、適正に運営されていると認められている。

